

報道関係各位



三菱地所株式会社
 大阪ガス都市開発株式会社
 オリックス不動産株式会社
 関電不動産開発株式会社
 積水ハウス株式会社
 株式会社竹中工務店
 阪急電鉄株式会社
 三菱地所レジデンス株式会社
 うめきた開発特定目的会社
 一般社団法人うめきたMMO

「うめきたの森」2026年11月20日（金）開園

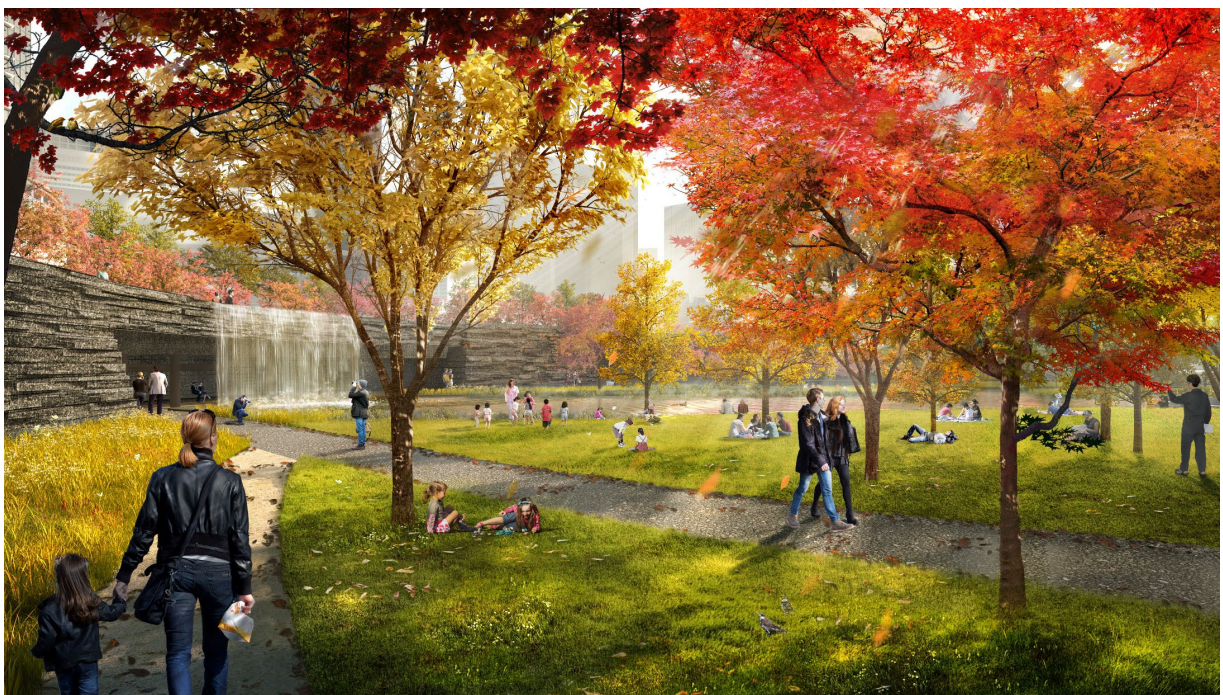
～JR大阪駅前に“都市の森”が誕生。生態系を再生成し、人と自然が共生する新たな都市拠点へ～

三菱地所株式会社を代表企業とするグラングリーン大阪開発事業者JV9社（以下「事業者JV」^{※1}）は、「グラングリーン大阪（GRAND GREEN OSAKA）」（以下「本プロジェクト」）内で大阪府・大阪市、独立行政法人都市再生機構（以下「UR都市機構」）との公民連携により「うめきた公園ノースパーク後行工区」（約1.0ha）の整備に取り組んでおります。今般、2027年春頃の全体開園に先駆け、2026年11月20日に「うめきたの森」部分（約0.9ha）^{※2}を早期開園することに決定しました。

本プロジェクトは、2024年9月6日に先行まちびらき、2025年3月21日に南館グランドオープンを行い、延べ約2,800万人の方々に来街いただいております。今後、事業者JVは「REGENERATIVE（リジェネラティブ）^{※3}」な空間「うめきたの森」も対象に加え、市民・来街者の方々や企業・研究機関等の皆さまと“共に育む”運営を通じ、本プロジェクトのコンセプト「"Osaka MIDORI LIFE"の創造」～「みどり」と「イノベーション」の融合～の更なる深度化を図ってまいります。

「うめきたの森」の特徴

- ① 【環境価値】生物多様性：JR大阪駅前に多様な生物が生息できる自然豊かな空間を“再生成”
- ② 【社会価値】Well-being：忙しい現代社会において“本来の自分を取り戻せる”都会のオアシス
- ③ 【経済価値】INNOVATION：社会課題解決と新産業創出の“実証フィールド”



「うめきたの森」の概要

●整備背景

- ・ うめきたエリアは、淀川をはじめとする河川が長い時間をかけて運んだ土砂の堆積によって形づくられた、大阪平野の低地部に位置します。かつては湿地帯として水をたたえ、その後、田園の風景へと移り変わってきたこの地には、水辺に育まれてきた土地の記憶が今も静かに息づいています。
- ・ そのような「大阪本来の潤ったみどりの大地」を、約 85 年間に亘り存在した「梅田貨物駅」の時代を経て、“都市の森”として“再生”することで、生態系ネットワークの再形成、都市部で暮らす人々の心身の Well-being 形成を通じた人と社会の回復を図ります。
- ・ 都市と自然、人と社会がより良い関係を取り戻すための“生きたプラットフォーム”として、また“再生型”都市づくりの先導的モデルとして、さまざまな取り組みを行ってまいります。



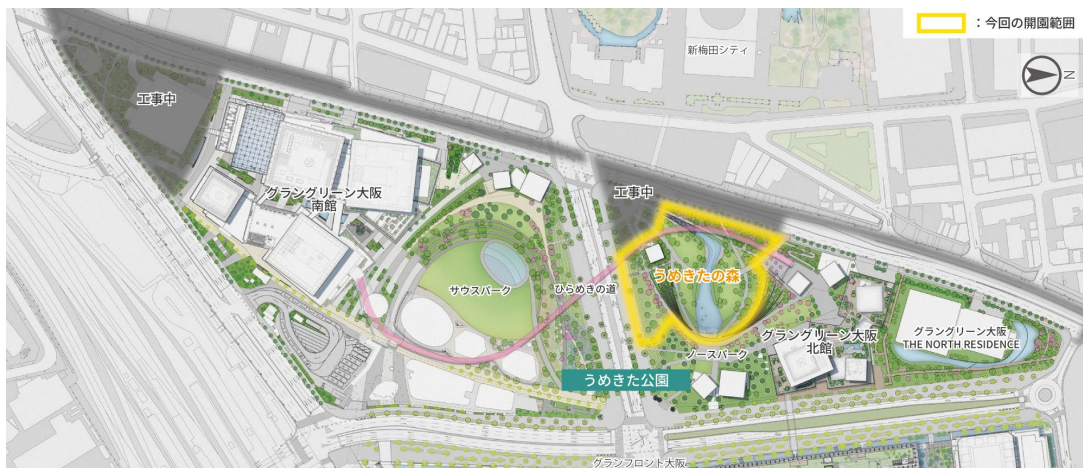
国土地理院「明治期の低湿地図」(赤枠：うめきたエリア)※4



2013年グランフロント大阪開業時の梅田貨物駅※5

●位置図・空間特性

- ・ 芝生広場やイベントスペースを有する都会的でアクティブな空間「うめきた公園サウスパーク※6」に対をなす、静けさや癒しが感じられる自然豊かな空間「ノースパーク」内の西側エリアに位置。
- ・ 水都大阪の歴史を踏まえ、幅約 10m、落差約 3m の滝など、約 1,400 m² の水景を整備します。
- ・ 南北街区を繋ぐ全長 350m の「ひらめきの道」が全面開通。うめきた全体の回遊性が向上します。

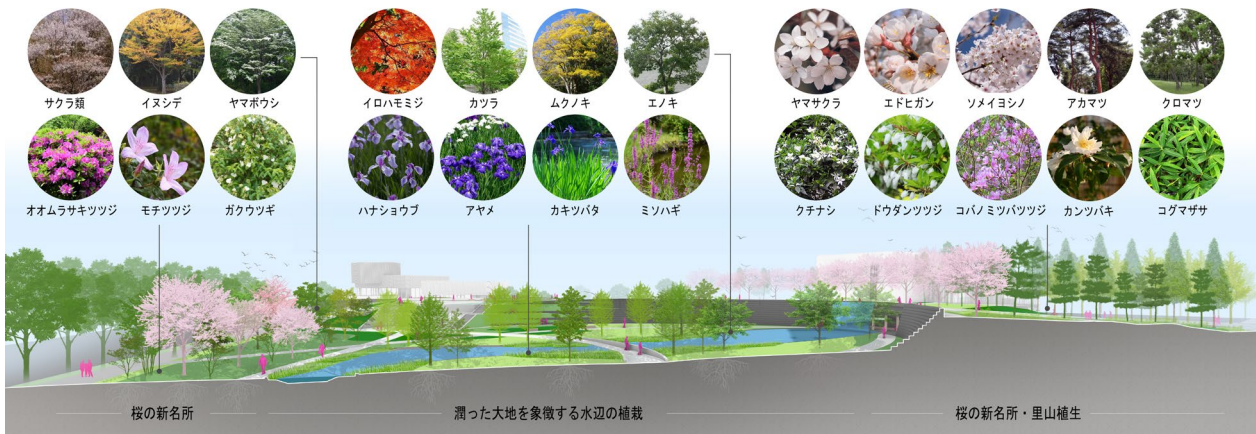


水景(滝・池)を中心に樹林・芝生が広がる憩いの空間

「ひらめきの道」から桜を眺める豊かな空間体験

●日本らしさ、大阪らしさ、うめきたらしさを感じることができる植栽計画

- ・大阪の桜の新名所をつくるほか、モミジやカツラ等の紅葉の美しい樹木や、ハナショウブやツツジ類といった日本で古来より親しまれている花類を、繊細な配色により演出することで、年間を通して日本の四季の美しさを感じられる植栽計画とします。
- ・古代より大阪の中心地として栄えた上町台地や大阪近郊の丘陵地に生育する里山植生（在来種）も取り込むことで、大阪らしさを表現すると共に、生態系にも配慮した植栽計画とします。
- ・「うめきたの森」の植栽は、コンセプトである大阪本来の潤いのある大地を表現する「水辺の森」として計画しています。エノキ・ムクノキなど、潜在自然植生も踏まえた落葉樹や、水辺環境に適した樹種を中心に構成しています。

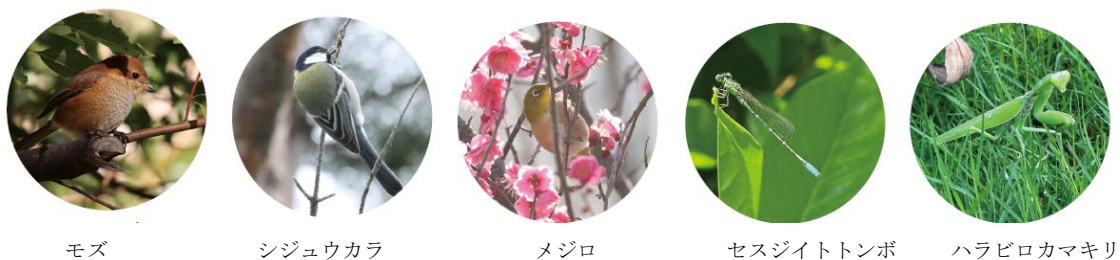


(参考) 植栽計画情報（今回開園範囲）

- ・ 高木 165 本・22 種、低木植栽約 3,000 m²・83 種、芝生エリア約 2,600 m²
- ・ 水生植物：ハナショウブ、カキツバタ、ミソハギ
- ・ 桜 23 本・6 種（エドヒガン・ヤマザクラ・オオシマザクラ・カンヒザクラ・シキザクラ・ササバザクラ）

生物多様性に関する取り組み

- ・世界的に都市化が進む中、生物多様性の喪失や気候変動、人々の心身の不調は、現代社会における地球規模の課題となっています。2022 年の生物多様性条約第 15 回締約国会議（COP15）において採択された「昆明・モンリオール生物多様性枠組」では、2030 年までに自然の回復を進めるとともに、都市を含むあらゆる空間でネイチャーポジティブを実現することが国際社会の共通目標として掲げられております。
- ・うめきた公園では、淀川や大阪城公園における生態調査から以下のような 56 種の誘致目標種（鳥類・昆虫類）を掲げ、これら生物の生息に配慮した環境を計画（光環境への配慮、水辺から後背の樹林へと連続していく多様性の高い環境創出等）しております。
- ・目標種のうち既に 30 種（鳥類 10 種、昆虫類 20 種）の生物が観測されており、うめきたの森の完成により、大阪都心を取り巻く生態系ネットワークの更なる向上が見込まれます。今後も生物モニタリング調査の実施により、目標種の生息状況を観測してまいります。



目標種のうちエリア内で観測済の鳥類・昆虫類の例

Well-being に関する取り組み

●ランドスケープがもたらす効果

- ・ 高さ約 3m のランドフォーム（石壁）に囲まれ、滝・池や水生植物などの多様な自然に包まれる「うめきたの森」では、視線や音が周囲からおのずと遮られ、生物のさえずりや木々の音が来園者をやさしく包み込むことで、JR 大阪駅前の都心にいながら日常生活で疲弊した心身をリセットできる空間です。



東西に広がる池と豊かな緑が生み出す、人と生物が共生する場

●来園者への提供サービス

- ・ 一般社団法人うめきた MMO^{※7}が先行開業エリアで展開しているレンタルサービスや、参加型プログラム「うめきた PUBLIC SCOOP」^{※8}を「うめきたの森」にも拡張することで、来街者は日常的に Well-being を実践、あるいは、生物多様性を体感できます。また、これら活動への興味が深まり自ら主体的な取り組みを希望される市民・来街者を対象として、公園でのチャレンジ活動支援の仕組み「MIDORI CLUB」^{※9}を開始します。

レンタルサービス	本や食事を楽しむ ピクニックセットレンタル	心地よい揺らぎに癒される フリーハンモック	鳥類・虫類を観察する 双眼鏡のレンタル
			
	森のなかで自分と向き合う マインドフルネスプログラム	フレッシュな空気で心身を整える 運動プログラム	公園ツアーや植栽管理体験など 「自然の学び」プログラム
参加型プログラム			

(注) 提供サービスについては検討中であり、今後変更の可能性があります。

INNOVATION に関する取り組み

- ・ 「うめきたの森」は、JR 大阪駅前という多様な人流・環境条件が交差する場所に立地する、都市機能と自然環境との共存を「実環境で検証するフィールド」としての役割も担います。
- ・ JAMBASE^{※10}では、特定の分野やテーマに限定せず、企業、スタートアップ、大学、自治体、市民など多様な主体が交わる開かれたイノベーション支援施設として、既に 400 社・約 1,800 人以上が集積しており、多彩なプレーヤーによるイノベーション創出活動が活発に行われています。
- ・ こうした環境のもと、「一般社団法人うめきた未来イノベーション機構（U・FINO）」^{ユーフイノ}※11では、自治体・企業・スタートアップ等が連携して社会課題解決に取り組む「XKANSAI ソーシャルイノベーションプログラム」^{クロスカンサイ}※12の受賞提案による新たなサービス・技術の社会実装に向けた実証実験を行います。健康寿命の延伸・QOL の向上をめざす最優秀提案^{※13}の実証を計画しており、「うめきたの森」をはじめとする公園空間を社会課題解決と新産業創出の実証フィールドとして活用してまいります。
- ・ このような取り組みをはじめとして、MIDORI パートナー（下段ご参照）やまちに集まる企業・研究機関・スタートアップ等とともに来街者が楽しみながら新たなサービスやテクノロジーを見学・体験できる機会を創出してまいります。



公園内イノベーション支援施設での体験イベントイメージ



2025 年度にうめきた公園で実施された実証実験
MUIK Kansai×VIE：「雲海リトリート」

【MIDORI パートナー】

- ・ うめきた公園を中心とする本プロジェクトの管理運営は、計 28 社（2026 年 4 月時点）の「MIDORI パートナー」^{※14}に支えられています。今後も本プロジェクトでは、MIDORI パートナーと共に、持続可能な社会づくり、来街者の QOL 向上に関する共創活動に取り組んでまいります。
- ・ その一環として、本年 5 月 2 日～4 日には一般社団法人うめきた MMO と MIDORI パートナーの共同企画によるサステナブル体験型イベント「MIDORI FES. 2026」^{※15}を開催します。

MIDORI PARTNER

PREMIER PARTNER



MAJOR PARTNER



MAIN PARTNER



SUPPORTING PARTNER

株式会社全日警	Lexus International	株式会社乃村工務社	株式会社バイオーム
株式会社四電工	神田通信機株式会社	株式会社日建設計総合研究所	株式会社日立産機システム
株式会社 AdvanSentinel	新虎興産株式会社	株式会社日比谷アメニス	斎久工業株式会社
			株式会社マッシュ

飲食店舗の新設

- 事業者JVは、うめきた公園内における設置許可施設^{*16}（以下「本公園施設」）として、「うめきたの森」の四季折々の景色を望むことができる飲食店舗「AOI NAPOLI OMBRA（仮称）」（会社名：株式会社バルニバービ、業態：カフェ、レストラン）を開業します。

【出店者コメント】

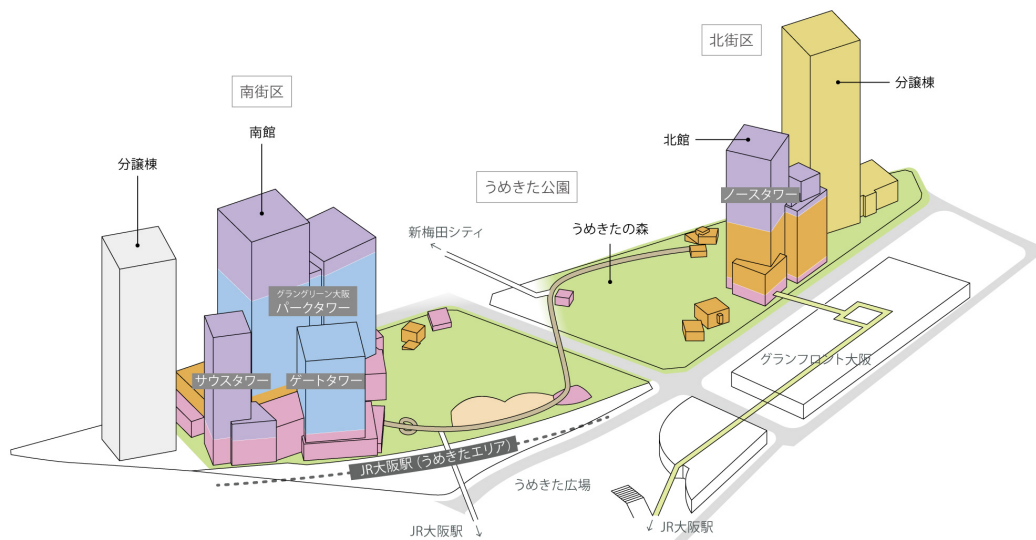
「緑豊かな公園のロケーションを最大限に活かし、薪窯ピッツァを核としたイタリアカフェレストランです。公園利用者の方々へ、テイクアウトやパーティー対応を通じて豊かな公園体験を提供し、季節の移ろいを感じられる店舗体験を創出。さらに、大阪産の食材（ハチミツなど）を活用したコラボレーションメニューや手軽に楽しめるワンハンドグルメ（テイクアウト）を展開することで、地域の魅力発信にも貢献してまいります。」



「AOI NAPOLI OMBRA（仮称）」外観イメージ

スケジュール

2024年9月6日	先行まちびらき
2025年3月21日	南館グランドオープン
2025年12月9日	北分譲棟（GRAND GREEN OSAKA the North Residence）竣工
2026年11月20日	うめきたの森 開園（うめきた公園ノースパーク後行工区のうち約9,000㎡） ※同日時点でグラングリーン大阪全体の約9割が開業
2027年春頃	うめきた公園 全体開園（今回未完成エリア約1,400㎡開園）
2027年度	全体まちびらき



うめきたの森開園時点の開業予定範囲（着色部分）

注釈

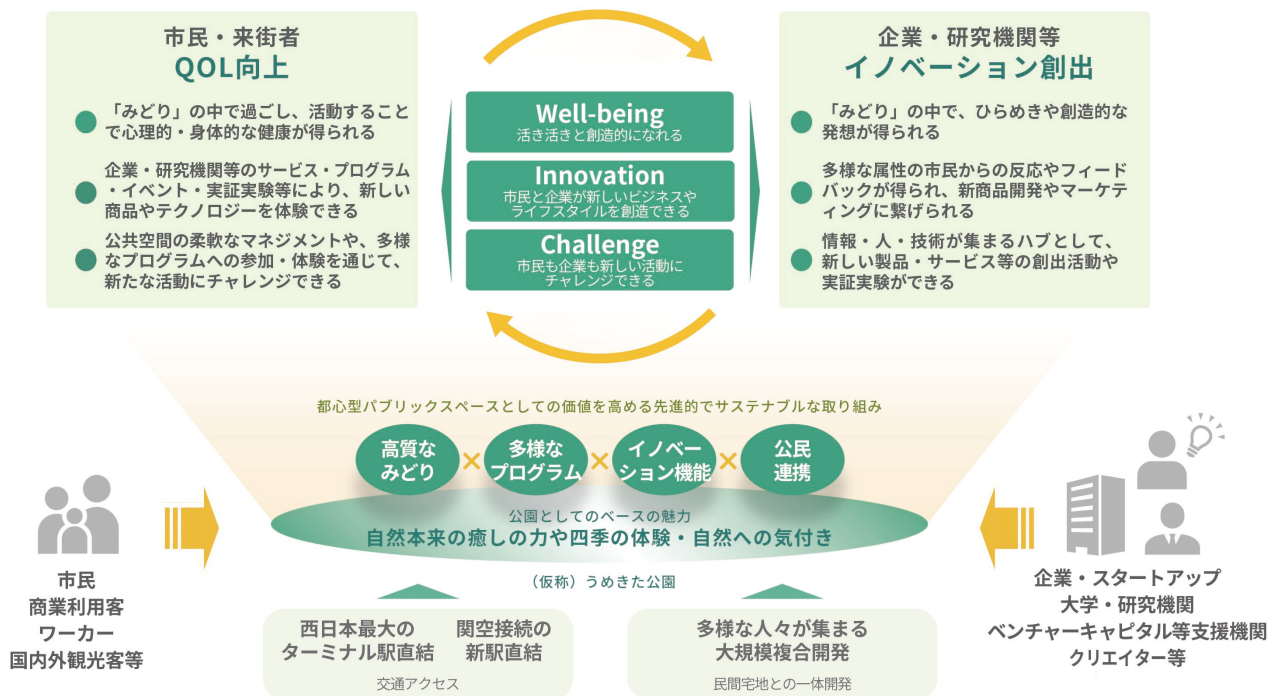
- ※1 事業者JVの1社であるうめきた開発特定目的会社は、株式会社大林組が出資するSPCです
- ※2 うめきたの森（以下大阪市ホームページで掲載されている「うめきたみどり基金」における定義を含む）の対象エリアについては、2027年春頃を予定するうめきた公園全体開園時における開園エリア（約1,400㎡）も含まれます
[大阪市：「うめきたみどり募金～みんなでつくろう未来のみどり～」の寄附受付終了時期・顕彰方法のお知らせ（…>市政に参加>寄付（寄附））](#)
- ※3 本リリースにおいては、環境や社会を持続させるだけでなく、より良い状態へと再生・回復（再生成）させていくことを重視する考え方を指します。国際的にも、循環経済、農業、観光、海洋などの分野で、自然や地域、社会システムの再生を志向する考え方として用いられています。本プロジェクトにおけるサステナビリティへの取組みに関する過去リリースはこちら
[「グラングリーン大阪」都市公園を含む複合開発で日本初※1となる「LEED-ND プラン認証」「SITES 予備認証」を同時取得（ともにGOLD 評価） | 三菱地所](#)
[グラングリーン大阪における良質な緑地の整備・マネジメント計画がTSUNAG 最高評価「トリプル・スター」を取得 | 三菱地所](#)
- ※4 提供：筑波大学附属図書館
- ※5 Google Maps を使用、株式会社日建設計にて色調整
- ※6 うめきた公園サウスポークを含む本公園全体の計画概要の詳細についてはこちら
[mec220516_umekita2park.pdf](#)
- ※7 うめきた公園のパークマネジメントとグラングリーン大阪全体のエリアマネジメントを一体的に行う目的で事業者JVが設立した組織。
- ※8 一般社団法人うめきたMMOが提供する、アフター5・休日に気軽に参加できる講座・体験プログラム
- ※9 うめきた公園を愛する人々が、集まり、公園を支え、盛り上げる活動を行うことを「まちのクラブ活動」として認定し、サポートする仕組み
- ※10 多様な人々が集い交わることで、新たなアイデアを形にし、社会実装や事業化への挑戦を行うことを支援するグラングリーン大阪のイノベーション施設
- ※11 グラングリーン大阪の開発に伴い官民連携で設立したイノベーション支援組織。大阪・関西におけるイノベーション創出を推進するために、イノベーションの事業化を支援するハブ機能を発揮し、エコシステムの強化を図ることを目的とする一般社団法人
- ※12 関西圏の産官学金が一体的に社会課題解決を目指すプログラム。自治体から提案された社会課題に対して、民間事業者から解決のための手法・企画を募集し、受賞した事業企画の社会実装を支援します
本プログラムのwebサイトはこちら：<https://u-fino.com/program/xkansai2025/>
2025年度受賞提案はこちら：<https://u-fino.com/news/docs/4b771a18b008da0ba6bebbcb013add2ca7f84dd.pdf>
- ※13 2025年度最優秀提案者（株式会社日本旅行ほか3社の共同企業体）による受賞発表リリースはこちら
[【認知機能（脳体力）の見える化】で目指す"超"課題解決型「あらたな認知症予防事業モデル」の実装へ | 株式会社 日本旅行のプレスリリース](#)
- ※14 本プロジェクトのサステナブルな価値観・計画や「共創」の理念に共感いただける企業や団体を対象とした企業連携制度。本制度では、「世界にいいことを、共創していくまちへ」というスローガンのもと、単なる営利活動にとどまらず、参画いただく企業や団体とともに世界規模の社会課題（持続可能な社会づくり、来街者のQOL向上など）の解決に向けた活動や情報発信を行ってまいります
- ※15 MIDORI FES. 2026のwebサイトはこちら：<https://umekita.com/ggo-special/midorifes2026/>
- ※16 都市公園法第5条（公園管理者以外の者の公園施設の設置等）に基づき、事業者JVが大阪市の許可に基づき設置する公園施設

以上

“Osaka MIDORI LIFE”の創造 ～「みどり」と「イノベーション」の融合～

これまでの都市づくりのパラダイムを超えて、国籍や年齢、性別、障がいの有無など、多様性を受け入れて知恵を分かち合い、それぞれの Quality of Life (QOL) の向上を感じられる社会の構築に貢献します。そのために、「みどり」と融合した生命力あふれる都市空間や、イノベーション活動の起点となる施設、市民や企業など、さまざまな人々が新しい活動にチャレンジできる場や仕組みをつくり、活力に満ちた創造的なライフモデル“Osaka MIDORI LIFE”をうめきたから関西、そして国内外へと発信していきます。

「みどり」と「イノベーション」の融合による豊かな未来生活 Osaka MIDORI LIFE

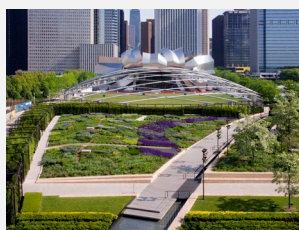


(参考) うめきた公園の特徴

●ランドスケープデザインの考え方

- ・世界的に活躍するランドスケープアーキテクト GGN をデザインリードとして起用し、設計を日建設計等が担当しています。
- ・『未来へのひらめきと原動力となる「みどり」』をデザインコンセプトに、民間宅地を含めた敷地全体を一つの「みどり」の大地として捉え、一体的かつシームレスに計画しています。
- ・うめきた公園サウスパークは都市的な空間、ノースパークは緑が多く自然豊かな空間とすると共に、周辺地域（JR 大阪駅方面・新梅田シティ方面）に対し開けた計画としています。
- ・最大高さ約 3m のランドフォーム（盛土）を、南北公園を跨いでうねるように配置することで、3つの主要空間「芝生広場」・「うめきたの森」・「ステッププラザ」を生み出すと共に、奥行きや立体感のある空間・景観の創出により、来園者の体験価値を高めます。
- ・道路で分断されたうめきた公園サウスパーク・ノースパークを、上空通路「ひらめきの道」により繋ぐことで、一体性を高めます。
- ・サウスパーク・ノースパーク双方への水景や桜の配置により、象徴的な風景を創出し、自然を楽しむ名所を作ります。

GGN



ルリーガーデン (シカゴ・ミレニアムパーク)

ビル&メリンダ・ゲイツ財団キャンパス (シアトル)

【概要】

1999年にアメリカ・シアトルで創立されたランドスケープアーキテクト会社。アメリカ・シカゴのミレニアムパークにある「ルリー・ガーデン」(2004年)、ワシントンDCの「国立アフリカ系アメリカ人歴史文化博物館」(2016年)など多数の代表作品が挙げられる。2011年スミソニアン・クーパー・ヒューイット賞、2017年ランドスケープの権威に贈られるASLA賞を受賞するなど、世界でも注目のランドスケープ建築集団。

【コメント】

「この公園は GGN にとって日本で初めてのプロジェクトです。この土地が持つ記憶や、大阪城の石垣等の日本のクラフツマンシップ(職人文化)、大阪の多くの橋を架けてきた文化、水の都からのインスピレーションを、都心の公園というパブリック空間や地域とのつながりを踏まえたデザインに落とし込んでいます。植栽のデザインにも力を入れており、大阪の在来種や日本らしさを感じられる樹木・草花が四季折々の風景をつくります。市民に愛される大阪の新しい名所になることを期待しています。」

■うめきた公園（一般園地）の概要

計画地	大阪市北区大深町地内（大阪都市計画公園 5・4・32 号大深町公園）
公園名称	うめきた公園
面積	約 45,000 m ²
整備	整備主体：大阪市・UR 都市機構 整備手法：防災公園街区整備事業（一部、土地区画整理事業） UR 都市機構によるベースグレードの公園整備に加え、事業者 JV のデザイン提案等によるまち全体の魅力を高めるアップグレードを実施後、大阪市内に移管予定
設計	基本設計：(株)日建設計・(株)三菱地所設計 実施設計：(株)日建設計 デザイン提案等：事業者 JV デザインリード：GGN ランドスケープ設計：(株)日建設計 照明デザイナー：(有)内原智史デザイン事務所 サインデザイナー：(有)井原理安デザイン事務所 サインプロジェクトマネジメント：(株)メック・デザイン・インターナショナル
施工	大林組・竹中工務店・竹中土木特定建設工事共同企業体

※大阪府リリース URL

https://www.pref.osaka.lg.jp/hodo/fumin/o140030/prs_50688.html

※大阪市リリース URL

<https://www.city.osaka.lg.jp/hodoshiryo/osakatokei/0000677513.htm>

※UR 都市機構リリース URL

https://www.ur-net.go.jp/west/press/bn5k440000037c7-att/20260409_ur_umekita_prerelease.pdf

■公園施設（設置許可施設）の概要

総延床面積	約 11,000 m ²
整備	整備主体：事業者 JV 整備手法：公園施設設置許可制度
設計	○公園施設全体（大屋根施設を除く） 基本設計・実施設計：(株)日建設計 ※VS. 設計監修：安藤忠雄建築研究所 ○大屋根施設 基本設計・実施設計：(有)SANAA 事務所
監理	○公園施設全体（大屋根施設を除く） (株)日建設計 ○大屋根施設 (有)SANAA 事務所
施工	うめきた 2 期共同企業体（(株)竹中工務店・(株)大林組）

※本リリース記載内容は、今後の検討・協議などにより、変更となる場合があります。